

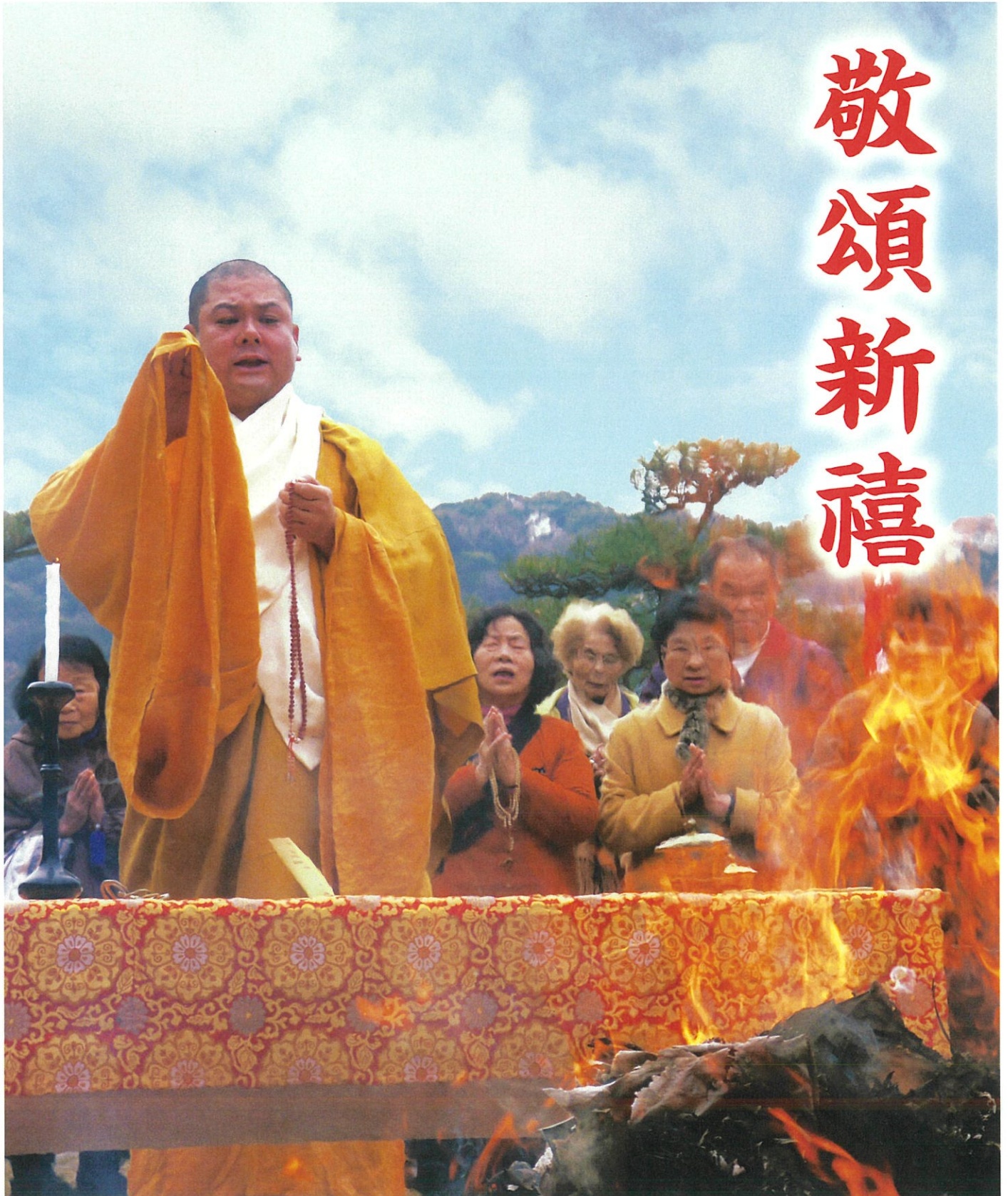


題字 / 弘法大師



高野山真言宗
備福山正智院 駕龍寺

住所 〒710-0042
岡山県倉敷市二日市600
電話 086-421-5631
発行人 富山義賢
ホームページ <http://www.karyuji.jp/>



敬頌
新禧

年頭所感 〳 仏の教えは中道である 〵

新年おめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

天皇陛下 皇后陛下におかせられましては、常に国民を思召されて頂いてい
ることは国民等しく感激する処であり、聖寿の万歳と皇室の弥栄、我が国の悠
久なる発展を御本尊ならびに高祖弘法大師御宝前にお祈り申し上げます。

お正月、寺院では修正会という儀式が行われます。

正月も修正会も「正」の字が付付けられています。ところでこの「正」という字はか
たよらないということ。単に正しいということではありません。およそ私た
ちはみな自分が正しいと思っていて、それが醜い争いのもとになるのです。

私の正義はあなたにとって不正義となり、あなたの正義は私にとって不正義と
なる。そこからおぞましい対立が生まれてきます。

仏法ではさとり(真実)に至る道は八つあると説いています。

正見 (かたよらないもの見方)

正思惟 (かたよりのない考え方)

正語 (かたよりのない言葉づかい)

正業 (かたよりのない行い)

正命 (かたよらない生活)

正精進 (かたよりのない営み)

正念 (かたよりのない心をもつ)

正定 (かたよりのない落ち着き)

一般に八正道とよばれるもので、この八つの道の実践がさとり(真実)に至る道
であると説かれています。

かたよりのなきころ、それが中道という言葉で表現されており、この中道に生
きるものがさとりであるといわれます。かたよりのとは、たとえば偏見、偏食、偏
執といった言葉がある通り、心の病からくるかたよりのことです。このような立場に立
つとすべてのものが正しく認識できなくなります。

しかし、中道を歩むということはなかなかむずかしく、私たち凡夫にとっては極
めて困難な道です。右にもかたよらず、左にもかたよらない。といって真中にもこ
だわらないというのが中道です。

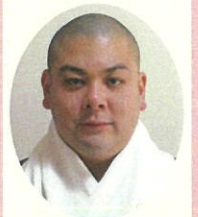
つまり、右、左、真中と固執してしまつたらもうそれは「偏り」の世界であつて、
中道ではないといふのです。

経典には相反する二つのうち、一方を取つてそれにとらわれえなならば、それは
誤りであると説かれます。

私たちはいつも、善と悪にとらわれ、邪と正にとらわれ、こころ安まるときが

備福山 正智院 駕龍寺住職

権中僧正 富山 義賢



ありません。善いこと、悪いこと、よこしまなこと、正しいこと、美しいものとそ
でないものにとらわれて、安心したり、不安になったり、喜んだり、悲しんだり、実
に忙しいものです。

善も悪も、邪も正も、美も醜も、本来実体的、不変なものではありません。仏
法ではこれを無記といいます。固定的な実体などないということでしょう。した
がつて、善悪も邪正も美醜もそのまま受けとめて、それにこだわらずに生きてい
くことが中道的な生き方でありましょう。

ある僧が、「曲がりくねつたこの松をまっすぐ見た者には褒美をとらず」と木札
に書いた。どこから見てもまっすぐに見られない。相談を受けた別の僧が、「簡単
なことだ。ずい分まがつた松だと言えよ」と答えました。曲がつたものをまっす
ぐに見なければならぬという私たちの心がすでに曲がつているのです。

お正月は二年の初めにあたり、昨年までの過ちを懺悔、修正し、自らの生き方
を見つめ直す機会にしたいものです。

尚、余談ではありますが、昨年九月に僧階が一階級昇補し、権中僧正に任ぜら
れました。未だ浅学非才の身であります。今後とも御厚誼御指導の程宜し
くお願い申し上げます。

寒い日々が続きますが、皆様方にはご自愛いただきまして、ご本尊はじめ諸仏
諸尊、お大師様の御加護をいただきだれかつ、この新しい丁酉年がより佳き年であ
りますようご祈念申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

南無聖観世音菩薩

南無大師遍照金剛

南無當山鎮守

南無大明神

合掌

謹賀新年

責任役員

総

代眞鍋兄一

藤木萬平

〃

陶浪保夫

大熊公夫

〃

那須昭文

岡本通

〃

小原惣一郎

中村晃大

〃

藤原公男

高木久志

〃

藤木達夫

高野山真言宗 駕龍寺

権中僧正

住職 富山 義賢

〃

〃

〃

備福山小史 平成二十八年

修正会 一月一日

元日午前零時より、本堂において一年初めの行事である修正会が厳修されました。除夜の鐘を搗きおえた参詣者は、順次本堂に入堂、住職より年頭の挨拶ののち一人一人が一年間の無病息災、開運招福を祈って酒水加持を受けられました。

お加持を受けた後は、お屠蘇を拝戴し縁起物の宝来(千支の切り絵)等を授与されました。

正月とは本来、その年の豊穰(ほうじょう)を司る歳神様(としがみさま)をお迎えする行事であり、一月の別名です。現在は、一月一日から一月三日までを三が日、一月七日までを松の内、あるいは松七日と呼び、この期間を「正月」と呼んでいます。この行事は「正月」に「修」する儀式であることから修正会と呼ばれます。もとは、礼仏して罪過を懺悔(さんげ)することにより、除災招福・五穀豊穰・国家安穩を祈る、悔過(けか)と呼ばれるものでした。「お水取り」で有名な東大寺修二会も、これに相当します。



節分会 二月三日

立春を翌日に控えた二月三日、午後三時より本堂内陣において、星供曼荼羅を奉祠し、節分法会が厳修されました。約二十名の檀信徒が参詣。各人の北斗七星・十二宮・九曜二十八宿の星をまつるとで、除災招福・福寿増長を祈念しました。

法会后、吉例豆まきを年男年女の

手により行い、帰りには恵方巻の接待を受け、寒中のひと時を和やかに過ごしました。

尚、本年より節分会の時間が午後一時からになります。



世話人総会 五月二十二日

当日、午後四時より役員、総代ならびに各地区の世話役が駕龍寺客殿に参集、平成二十八年の総会が開催されました。

冒頭、住職の御垂示に続き役員挨拶。事業報告、会計報告等を審議、監査報告ののち、全議案を意義なく承認。

その他質疑応答ののち、午後五時前散会となりました。



孟蘭盆大施餓鬼会 八月十七日

八月十七日、午前十時より駕龍寺本堂において毎年恒例の孟蘭盆大施餓鬼会が厳修されました。

法会では平成二十八年に初盆を迎えられた精霊のご家族をはじめ、多数の檀信徒の皆様が参列され、富山義賢住職導師のもと隣寺の法輪寺田中良全住職、広島県福山市の正光寺野田泰洋住職、大阪府摂津市の金剛院松政暁道僧正のご出仕により各師の読経の響く中、参列者は焼香して、各々志すところの精霊の増進菩提を祈りました。

法会に引き続き、法輪寺住職 田中良全僧正による法話が行われ、平易な言葉と軽妙な語り口で十界曼荼羅図の絵解きなど盛りだくさんの内容でお話をいただき、参詣者は楽しく耳を傾けていました。

お齋として本堂前のテントではそうめんと麦茶の接待が行われ、総代と檀徒婦人有志の方々の方々の前日からの準備と、当日暑い中での熱心な奉仕により、盛大裡に終了しました。

なお、八月十三日夕刻に奉迎された檀信徒各家の先祖代々霊位は十六日までの四日間、住職はじめ寺族の手厚いもてなしを受けられ、一七日夕刻、住職によって密厳浄土に再び奉送されました。

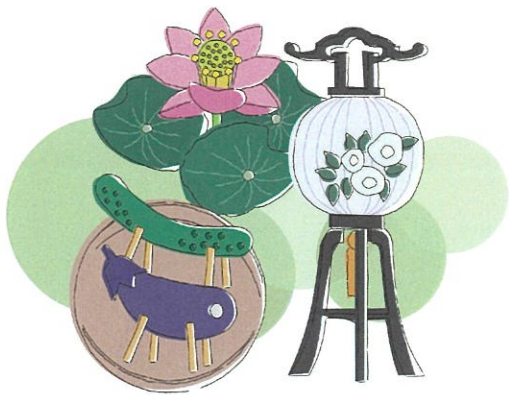


盆棚経

七月三十日～八月十四日

恒例の盆棚経が約二週間にわたりに行われました。年々暑さが厳しくなる中、住職以下五名の僧侶の助法により期間中、瀬戸内市を皮切りに、岡山市内、浅口市、美星町、高梁市を含め、約七百六十軒の檀家宅にお盆の供養に上がりました。

毎年、棚経期間中は各御家庭の皆様、地区世話役の皆様には格別のお心遣いをいただき、暑い中大変お世話になっております。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。



帯江小学校

六年生来山

十一月十六日

十一月十六日、地元の帯江小学校の六年生二十五名が、郷土の歴史に触れる総合学習の一環「探検・発見・帯江さ」として駕龍寺を訪れました。当日は担当の伊丹先生の引率のもと地域学習の協力者、那須昭文氏(駕龍寺檀徒)、北川小四郎氏とともに駕龍寺を訪れ、住職から寺の歴史や駕龍寺が帯江小学校の元になっていること(明治十三年帯江小学)などの説明を受け、興味深く聞き入っていました。

一行は、駕龍寺を後にして次の目的地である一王子神社に向かいました。



酒樽観音大祭 大般若経転読法会 十一月二十日

昨年十一月二十日午前十時より、本堂において恒例行事の酒樽観音大祭大般若転読法会が厳修されました。この行事は収穫の秋を迎え、農作物の実りと食に対する感謝を捧げ、檀信徒の家内安全と厄除け護災いを祈るために、行われる行事です。

当日は大般若法会の本尊として正面に「般若十六善神」はんにやじゅうろくぜんじん「高野明神影」向図「弘法大師御影」の三幅の軸が掛けられ、富山住職導師のもと結衆ならびに法縁寺院十口を職衆に、御導師の三禮、



酒樽観音前での御法楽



御加持

表白に続いて職衆が大般若経六百巻を次々に転読しました。その間参列者には大般若経理趣分によるお加持が行われ、一人一人が般若の梵風を受けて、一年の感謝と無病息災を祈りました。

法會後には、この日にしか受けることのできない大般若経のお札と御供物、お接待の赤飯などが配られました。

今年の日程は十一月十九日 日曜日です。皆様お揃いでお詣り下さい。

奉納御礼

新穀奉納 もち米三十キロ

藤原通博殿 《倉敷市粒浦》

尚、奉献頂きましたお米は、大般若會のお接待の赤飯に使用させて頂きました。謹んで御礼申し上げます。



原田壽子さん コンサートのご案内



年末年始のご案内

新年の始まりを 駕龍寺で迎える

新年初詣のご案内

過ぎ行く一年を振り返り、来たるべき新年が素晴らしい年でありますように、あなたらしい一年の出発を。皆様のご参詣、心よりお待ちしております。

大晦日から元日にかけて各種法要、御祈願を行います。

除夜の鐘

大晦日の午後十一時四十五分、住職のお撞きになる一番鐘より順に、善男善女が百八つの鐘を鳴らして心身清浄をお祈り致します。

除夜の鐘待遇

本堂内にて御屠蘇拝戴・吉祥宝来・干支飾り・お供物
境内テントにて、御神酒・甘酒の接待

※数に限りがあります。

予めご了承下さい。

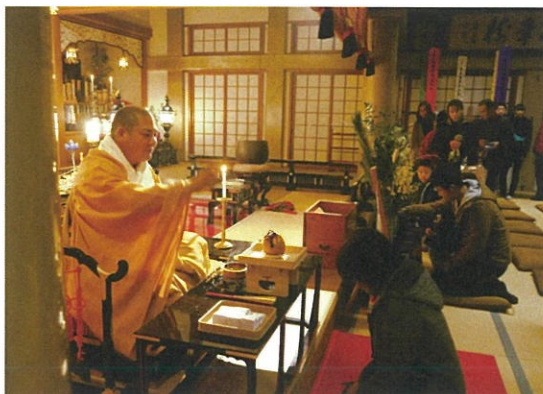
※お問合せは駕龍寺まで

新年初詣・修正会

(じゅしよつえ)

除夜の鐘が境内に響き渡る中、午前零時より本堂におきまして「修正会」をお勤め致します。

新しい年を迎え、一年を振り返り思い新たにお参り下さいますよう、皆様のご参詣心よりお待ち



しております。

修正会にお参りされた方には、ご本尊御宝前において特別に祈願した法水を灌ぐ、酒水加持(心身を清める作法)をお一人お一人にお授け致します。

※本堂へのお参りは大晦日より元日の午前二時まで。

※ご参詣の方が大勢いらっしゃいますので、お越しの際は十分にお気をつけて、まわりの方へのご配慮も併せてお願い致します。

尚、正月三が日の本堂内拝は午前八時より、午後四時半までとさせていただきます。

ご自由に堂内にお上がりになり、ご焼香、お屠蘇等をお受けください。

(授与品が堂内にない場合は、頒布終了です。)

初観音・浄焚会 (じしようぼんえ)

初観音のお勤めに引き続き、駕龍寺にお納め頂いた古い御守・御札・お位牌などを供養し、境内浄焚場にてお焚き上げ致します。

【日時】 一月十七日十時より

【場所】 初観音法会・本堂

浄焚会・本堂前浄焚場にて

【受付】 随時受付

※お勤めののち、おさがりのせんざいをお接待いたします。

お知らせ



十二月二十九日から一月七日までは年末年始(松の内)につき、三が日以降の年忌法要や墓前経等の仏事はお休みさせていただきます。何卒御諒承ください。

(通夜・葬儀についてはこの限りではありません)

お願い

「参与会」 お入りください

お大師さまは今もなお高野山奥之院で永遠の御入定に入っております。その願いはすべての宗派や身分・職業・果ては国境をも越えて生き続けています。弘法大師を尊び敬愛し、信仰する皆様と共に高野山真言宗の更なる発展に、何卒お力添えをたまわりたく、高野山真言宗参与会にご入会下さいませよう懇願申し上げます。皆様方がお大師さまの御加護を受けられ、お幸せでありますように。

高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会といひ、総本山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師(空海)のみ教を守り弘め、お大師さまの衆生救済のご誓願におこたえすることを目的とする信仰団体です。

●お大師さまと共に広げることろの輪、現代の高野聖としてお大師さまのみ教を広げていくために活動を行っております。会員になられますと、年二回の研修会や、高野山教報の購読、高野山へお参りの折りは各所内拝料無料、参拝記念としてお線香を贈呈致します。

●研修会 参与会では、年一回研修を行っております。内容は、受戒、阿字観や法話聴講、

奉納御礼

本年も、御本尊御宝前に新米献穀をはじめ蓮などの
 献花ならびに季節の農産物、
 献酒、献菓など多くの篤信
 の方々に真心のこもった
 品々を御奉納いただきまし
 た。皆様の厚きご信援に心
 より御礼申し上げます。

合掌



ご奉仕御礼

駕龍寺の境内美観維持のために、毎月境内奉仕の皆
 様はじめ、折に触れて個人的に草刈りや伐採に汗を流
 していただいた方々に心より御礼申し上げます。

合掌

団参のお誘い

「真言十八本山霊場」巡拝

真言宗は高野山真言宗などの古義真言宗に加え、新
 たに分派した興教大師・覚鑿の新義真言宗、豊山派・
 智山派などの新義真言宗なども含めて現在十八の各派
 に大別されます。

「真言十八本山」とは、それらの十八の各派の大本
 山である十八の寺のことを指し、元々は各山の連絡・
 調整などのためのものだったが、弘法大師の偉大な足

跡を辿ろうと十八の寺を巡拝する人が増えたこともあ
 り、「真言十八本山霊場（しんごんしゅうじゅうはちほ
 んざんれいじょう）」として専用の納経帳や軸が用意さ
 れるようになりました。

真言宗各派総大本山会は一九九五年（平成七年）に結
 成され、弘法大師生誕の地である四国香川県の善通寺か
 ら、真言密教を広めるため基盤の地とした京都・奈良、
 そして入定の地・高野山ま
 で、京都・奈良・和歌山・
 兵庫の近畿一府四県と四
 国の香川県の名刹で構成
 されています。

日程等詳細につきましては、追ってご案内申し
 上げます。

詳細は決まり次第、皆
 様にご案内申し上げます。

のぼり幡奉献

駕龍寺境内内へのぼり幡を一年間掲揚し、所願成
 就を祈念申し上げます。なお掲揚に先立ち朝の勤
 行にてお名前の奉読を行います。

- 南無観世音菩薩

- 南無大師遍照金剛

各三千元以上

お申し込みは

随時駕龍寺まで



お願い 「参与会にお入りください」

お大師さまは今も高野山奥之院で永
 遠の御入定に入っております。その願い
 はすべての宗派や身分・職業・果ては国境
 をも越えて生き続けています。弘法大師を
 尊び敬愛し、信仰する皆様と共に高野山真
 言宗の更なる発展に、何卒お力添えをなま
 わりたく、高野山真言宗参与会にご入会下
 さいませよう懇願申し上げます。皆様方が
 お大師さまの御加護を受けられ、お幸せで
 ありますように。
 高野山真言宗参与会事務局

参与会とは、正式には高野山真言宗参与会
 といひ、総本山金剛峯寺座主・高野山真言
 宗管長さまを総裁と仰ぎ、弘法大師（空海）
 のみ教えを守り弘め、お大師さまの衆生救
 済のご誓願におこたえすることを目的とす
 る信仰団体です。

● 研修会 参与会では、年一回研修を行っ
 ております。内容は、受戒、阿字観や法
 話聴講、開行（下座行）、御詠歌など
 です。開催については、毎月一回送ら
 れる「高野山報」にてのご案内になりま
 す。会員の皆さまからは、大変好評を得
 ている研修です。

● 物故者慰霊碑は、篤い浄財により建立
 され、平成十四年十一月十日奥の院にお
 いて慰霊碑開眼法会が執り行われまし
 た。参与会員は、板義・参与物故者慰霊
 碑におまつりし永く供養を捧げます。
 ● 会員になると、高野山真言宗管長（参与
 会総裁）より委嘱状をお届けし、参与装
 束と参与バッジを授与致します。また、
 参与装束をつけて高野山にご登山くださ
 れば、諸堂、霊宝館の内拝が無料となり、
 金剛峯寺に参拝されます。記念品として
 お線香を贈呈いたします。月一回発行の
 「高野山報」をお届けし、高野山真言
 宗が発行するパンフレットなど印刷物を
 その都度お届けします。

● 年会費 一万円
 この年会費は、お大師さまのみ教えを一
 人でも多くの人に知っていただくための
 広報活動に役立てられています。

お問い合わせ、パンフレット
 ご希望の方は駕龍寺まで

参与会にご入会をお願いします。

森下 尚子（五日市）
 村上福美子（笹 沖）

まいられえ岡山

山陽新聞社の企画「まいられえ岡山」に駕龍寺も参加しています。県内の神社、仏閣を巡るスタンプラリーとフォトコンテストの本立で、毎年行われており、今回で七回目となります。ガイドブックの発行以後、たくさんの方々が駕龍寺を訪れて、御朱印を頂かれています。

スタンプラリーでは抽選で賞品も用意されているようです。カメラの腕に自信のある方は、フォトコンテストにも応募されてみてはいかがでしょうか。

ガイドブックと応募用紙は駕龍寺でも用意しています。



ガイドブック

仏画への誘い

昨年一月より、月一回お寺で仏画教室を開催しています。様々な仏様のお姿をなぞって描く、簡単な写仏です。

ただ一心に筆を走らせる。仏さまと向き合う時間は、自分自身と向き合う時間でもあり

ます。あつという間の二時間です。ご自身の心にある仏性を見つめてみませんか。毎回十数名の方が参加してくださっています。初めての方ばかりです。ご興味がおありの方は、どうぞお気軽にお問い合わせ、ご参加ください。

日時…毎月一回(不定期) 13時～15時頃
 参加費…一、〇〇〇円(材料費別途)
 持参物…すずり・墨(墨汁不可)

お守り作りのご案内

平成二十九年の干支は酉年。酉年の守り本尊は、不動明王です。この不動明王をご自分で描いて、ご自分のお守りを作りませんか。下絵をなぞるだけの、簡単な仏画(写仏)です。お姿が完成した後は、一体一体住職が梵字を書き入れ、開眼をさせていただきます。上記仏画教室に参加されていない方でも、どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせの上、是非お越しください。

- 日時…一月二十六日(木) 13時～15時頃
- 参加費…一、〇〇〇円(お守り作りが初めての方は、材料費別途一、五〇〇円)
- 持参物…すずり・墨(墨汁不可)
- 申し込み締切…一月十五日(日)



子育て勉強会

お寺では、毎月二回、子育て中のお母さんを対象とした、子育て勉強会を開催しています。社会の仕組みが変わり、お母さんと子供を取り巻く環境も大きく変わってきています。核家族化が進み、子育てのちょっとした悩みや相談ができていく環境になってきている中で、しつけや、お友達とのかかわり、発達のことなど、子育ての悩みは尽きません。

そうした、子育ての悩みや困ったことの具体的な対処の仕方などを、日本アドラー心理学会認定家族コンサルタントでいらつしやる田中新一さんをリーダーに、グループで問題解決していく、そんな勉強会を行っています。

子どもを叱ったりほめたりでなく、勇気づけながら育てるにはどうすればよいか。どういふ点を工夫すれば、自立し、社会と調和できる子どもを育てることができるか。アドラー心理学にもとづく科学的でハートフルな育児法です。

よかつたら子育てをされている娘さんやお嫁さんにもご紹介ください。檀家さんでなくてももちろん大丈夫です。お問い合わせだけでもお気軽にどうぞ。

- 開催日…毎月第一金曜日、第三水曜日 10時～12時
- (行事等により変更することもあります。事前にお問い合わせください)
- 参加費…三〇〇円



お寺DEヨガ教室



お寺DEヨガ教室、始めました！毎月二回行っています。普段の生活の中では、余り意識することのない、呼吸や、筋肉の動き、身体の変化を感じてみませんか？自分の身体と向き合うことのできる貴重な時間です。心と身体をゆるめてみたいという方に、是非お勧めです。

興味のある方は、お寺までお気軽にお問い合わせください。

■日時：毎月二回（不定期）10時～11時半頃
■参加費：一、〇〇〇円

駕龍寺の御守

「御宝号御守」（ごほうごうおまもり）



駕龍寺の御守は、御本尊聖観世音菩薩の尊い御霊徳を宿した御分身です。一月一日より、「御宝号御守」を授与します。

御宝号御守は高野山伽藍中門再建の使用材（高野山にて先徳が育成し残してきた森林の高野檜）を蘇生した御守です。南無大師遍照金剛の文字はお大師様の書より頂いたものです。

この御守を身に着け、皆様と高野山の命との繋がりを感じつつ、あらゆる災厄が断ち切れ幸運が訪れるようお祈りください。
初穂料 五〇〇円

コラム 正月の縁起物

昔から正月の縁起ものとして乾物屋などで売られていたものに次のようなものがあります。

「橙」 実を結ぶと七、八年落ちることがなく代々続くので祝い物として売られていました。

「搗栗」 勝の字にかえて万事に勝つという縁起をかついで。

「蜜柑・梅干し」 玉を意味する宝珠という名で売られていました。

「昆布」 よろこぶに掛けて縁起物になりました。

「伊勢海老」 老の字にあやかり、永く腰のかがむまで長命に生きることを願います。

「八つ頭」 末広がりの「八」と、子孫繁栄や人の「頭」になるようにという縁起物としておせち料理によく使われます。

「祝箸」 祝い箸は、両方の先端が細くなっている、「両口箸」とも呼ばれます。それは、

一方は神様用、もう一方を人が使うためで、「神人共食」を意味しています。おせち料理は年神様へお供えし、それを下げていた Danku のもの。新年を祝い、一年の恩恵を授かる意味から年神様と食事を共にするわけです。

両方とも使えるからといって、ひっくり返して取り箸にしたりするのはタブーです。その大事な箸がお祝いの席で折れたりするのを忌み嫌うため、丈夫で折れにくい柳の木が使われています。また、柳は水で清められた神聖な木とされ、春一番に芽吹くお

めでたい木とされています。そのため「柳箸」ともいわれ、縁起良く「家内喜」と書くこともあります。

「田作」 ごまめのことです。昔、田の肥料にしたことから豊作を祈ってこの名がついたようです。

橙のめでたくあるや餅の上 吉田冬葉

蓬菜に積む搗栗のひとにぎり 光信喜美子

伊勢海老の全き髭もめでたけれ 高木蒼梧

田作や庵の肴も海のもの 正岡子規

訃報

藤原謙次氏

粒浦地区世話役の藤原謙次氏は去る昨年四月五日、享年八十四歳を以て逝去。哀悼。即ち葬儀告別式は四月八日倉敷市二日市、エヴァホール倉敷に於いて駕龍寺住職導師のもと、協導師として大阪府摂津市金剛院松政暁道僧正、福岡県朝倉市高野寺鐘ヶ江尊興師を招請し、参列者多数でその遺徳が偲ばれる盛葬であった。喪主は妻の美代刀自。氏は倉敷市消防局に奉職、市内消防署長等を歴任し、駕龍寺にあつては粒浦地区世話役を務め、寺を護り、興隆に尽力し多大な功績があつた。

大賀信行氏

茶屋町帯沖地区世話役の大賀信行氏は去る昨年八月二十九日、行年五十八歳を以て急逝。哀悼。即ち葬儀告別式は八月三十一日、エヴァホール倉敷に於いて富山義賢駕龍寺住職導師のもと、営まれた。喪主は長男の貴弘氏。

氏は平成二十二年、父の康弘翁の後を引き継いで駕龍寺世話役に就任、勤務の傍ら駕龍寺の外護と発展に貢献した。温厚で明るく、真面目な人柄に寺内の信頼も厚く、長く駕龍寺の運営に尽力されることが期待されていただけに、その早すぎる逝去が惜しまれている。

年中行事

平成二十九年 年忌線出表

法事は御命日に、もしくは御命日に遅れないように計画致しましょう

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前に日に行うべきだというしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになっていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれています。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるといういみではありません。

だから命日を過ぎていたとしても、法要をしないでおくよりは、遅れてでもした方が供養になるのは確かですから、是非行つてあげてください。

命日の当日に法事が出来なければ、なるべくそれよりも前に日に行うべきだというしきたりは、「人間はいい加減なものなので、いつでもいいとなると、どんどんおろそかになっていくから、当日にできなかつたり、土曜や日曜に執り行いたい場合は、命日より前にしなさい」と、昔の人は教えてくれています。命日を過ぎてから法事をしたら良くないとか、祟りがあるといういみではありません。

一 周忌	平成二十八年	逝去
三 回忌	同 二十七年	〃
七 回忌	同 二十三年	〃
十三回忌	同 十七年	〃
十七回忌	同 十三年	〃
二十三回忌	同 七年	〃
二十五回忌	同 五年	〃
二十七回忌	同 三年	〃
三十三回忌	昭和六十年	〃
三十七回忌	同 五十六年	〃
五十回忌	同 四十三年	〃
七十回忌	同 二十三年	〃
百 回忌	大正七年	〃

慧燈星懸

新年おめでとうございます。

お正月には初日の出が付きものですが、お天気によってはご来光を拝めない事もあるでしょう。しかし、太陽が雲に隠れて見えなくとも消えて無くなったのではなく、雲が切れて明るく輝いたとしても、太陽が初めて生じたものではありません。お日様は雲のあるなしにかかわらず大空にずっとおいでになります。それと同じように私たちの中にも悟りの明るいお日様のような円満な心が存在しています。普段は真つ暗闇の迷いの雲で覆われて見えなけれど、み仏の眼には皆さんの丸い心がちゃんと光り輝いているのです。これを信じて信仰するのがお大師様の信者です。人間は生まれた時から悟りの心が具わっているのだから、それを少しでも現わせばよいのだとお大師様はおっしゃいます。こんなに楽でわかりやすい教えはありません。信心とは大いなる安心を得るためにするものなのです。

今年はずっと十年目の節目の年です。住職として恙なく祈りの日々を送らせていただいていることの有難さをお喜びつつ、次の十年に向け、今年も皆様とともに精進してまいりたいと存じます。今後とも倍旧のご信援を宜しくお願ひ申し上げます。(G・T)



投稿募集

皆様の疑問質問にお答えします
お便りをお寄せください

福寿海では読者の皆様からの投稿を募集しています。皆様の宗教体験は日常生活で感じたことなどを寄せてください。また『お答えします』のコーナーでは、皆様から寄せられた疑問質問に、住職はじめその道のプロが回答させていただきます。どんな些細な内容でも結構ですので、いろんなご質問をお待ちしています。

《宛先》

郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業を明記の上、左記までお送りください。

〒七一〇〇〇四二 岡山県倉敷市二日市六〇〇

高野山真言宗 駕龍寺「福寿海」係

●Eメールの場合は info@karyuji.jp まで

※採用させていただいた方には駕龍寺より粗品を進呈させていただきます。

※御供養・御祈祷時受付(要予約)
※いずれの行事にもお誘いあわせ、お気軽に御参詣ください。

○奉仕の日(境内清掃)
概ね毎月二十八日午前中

○大師講 毎月二十一日午前十時

○観音講 毎月十七日午前十時
法話、おとき差し上げます。

○鎮守講 毎月一日午前十時

○除夜会 十二月三十一日午後十一時四十五分

●酒樽観音大祭大般若転読法要
十一月十九日(日)午前十時

●帯江三十三観音霊場本尊

●秋季彼岸会・永代経供養
九月十七日午前十時

●孟蘭盆大施餓鬼会
八月十七日午前十時

●弘法大師正御影供
春季彼岸会・永代経供養
三月十七日午前十時

●修正会 一月一日午前零時
●節分会 二月三日午後一時